

## 「みなとオアシス伏木」登録証交付式のお知らせ ～万葉から続く歴史ある“みなとまち”に新たなにぎわい創出を～

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として国土交通省港湾局長が申請に基づき登録する制度です。

この度「みなとオアシス伏木」が新規登録されることとなり、下記の通り登録証交付式を行います。なお、この交付式は、「伏木港海運振興会・伏木外港建設促進期成同盟会定期総会」の開催に併せて行います。

今回の登録により「みなとオアシス」は全国で110カ所目（富山県内では「みなとオアシス海王丸パーク」「みなとオアシス魚津」に次いで3カ所目）となります。

「みなとオアシス」の概要は「別紙1」、「みなとオアシス伏木」の詳細は「別紙2」をご覧ください。

### 記

- 1 開催日時 平成30年6月1日（金）15:00～15:30
- 2 場所 伏木コミュニティセンター  
3階「多目的ホール」  
富山県高岡市伏木湊町13-1
- 3 出席者 高岡市長、地元関係者  
国土交通省北陸地方整備局次長 他



### 「みなとオアシス伏木」の構成施設



【代表施設】伏木コミュニティセンター



【構成施設】万葉3号岸壁



【構成施設】万葉埠頭緑地



【構成施設】国分海浜公園

#### 同時発表記者クラブ

富山県政記者クラブ  
専門紙



国土交通省

#### 問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局

港湾空港部 広域港湾管理官 奥田

課長補佐 吉岡

TEL 025-370-6706

FAX 025-280-8783

## ○みなとオアシスとは

- ・地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、平成15年に制度を設立
- ・国土交通省港湾局長が住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を登録するもの

## ○みなとオアシスの担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客等の交流及び休憩
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供
- ・その他（災害時の支援、商業機能 など）

## ○みなとオアシスの構成施設

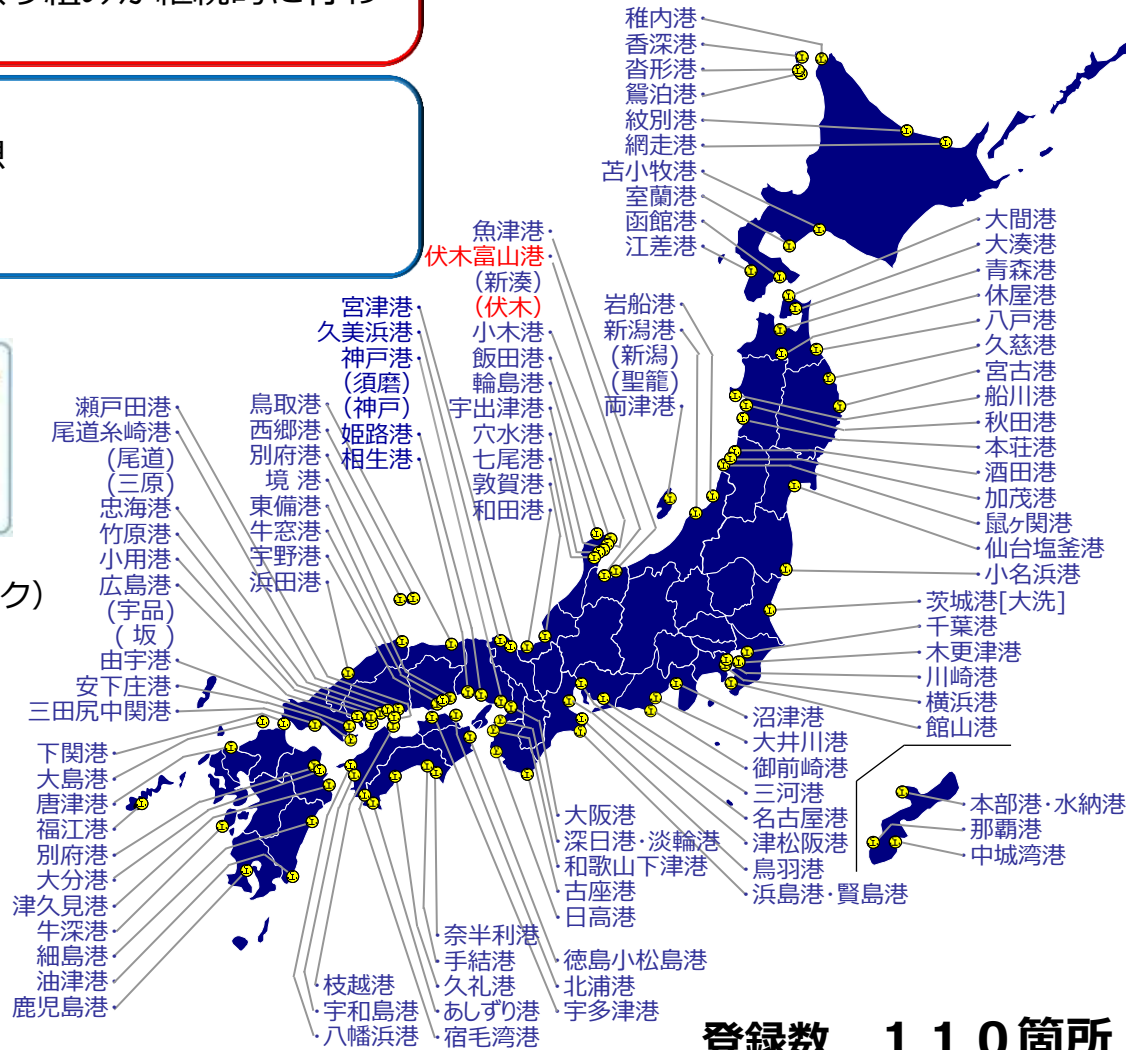
- ・旅客ターミナル
- ・地元産品の物販飲食店
- ・文化交流施設 など

## ○みなとオアシスの設置者・運営者

- ・地方公共団体（港湾管理者含む）
- ・NPO団体、協議会 など



標章  
(シンボルマーク)



構成施設のイメージ



地域振興イベントの開催状況

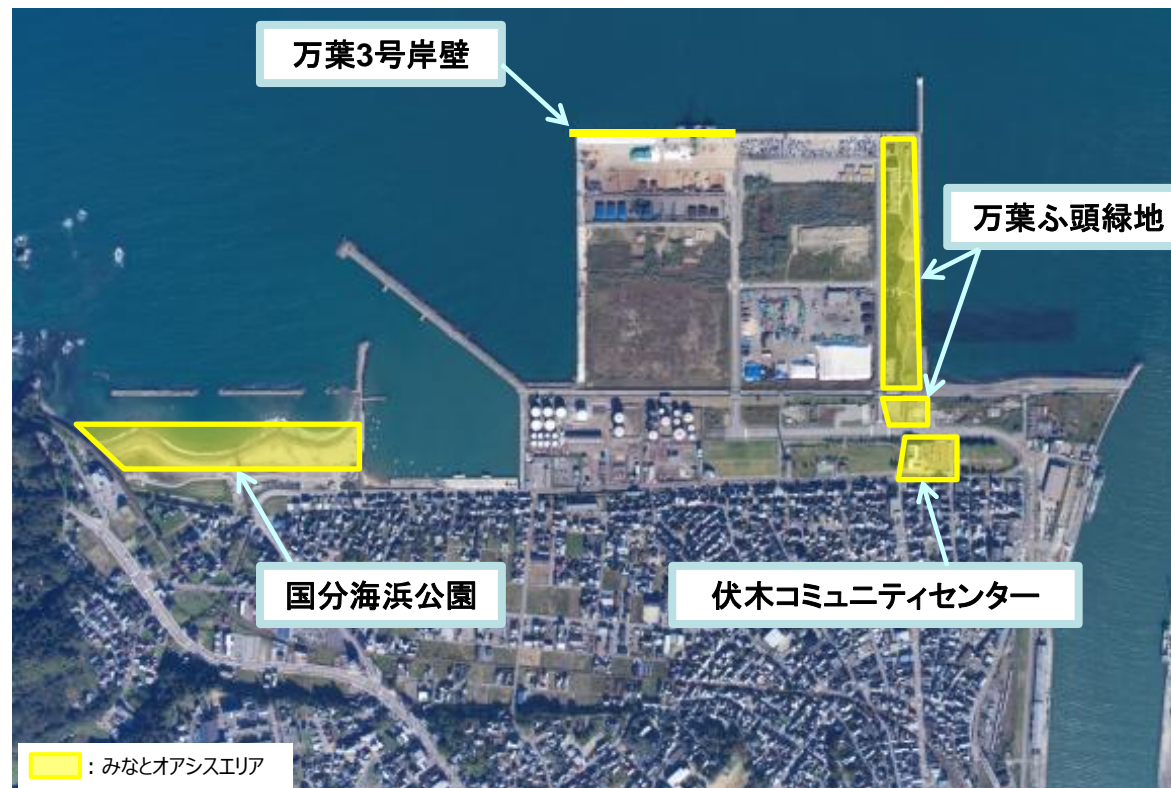




国土地理院地図（電子国土Web）(<http://maps.gsi.go.jp>)をもとに国土交通省作成

## 【基本情報】

設置者	富山県高岡市
運営者	富山県高岡市
所在港湾	伏木富山港（伏木地区）【国際拠点港湾】
港湾管理者	富山県



## 【代表施設】



伏木コミュニティセンター

## 【主なイベント】



ボイジャー・オブ・ザ・シーズ

クルーズ船寄港



クルーズ旅客のおもてなし

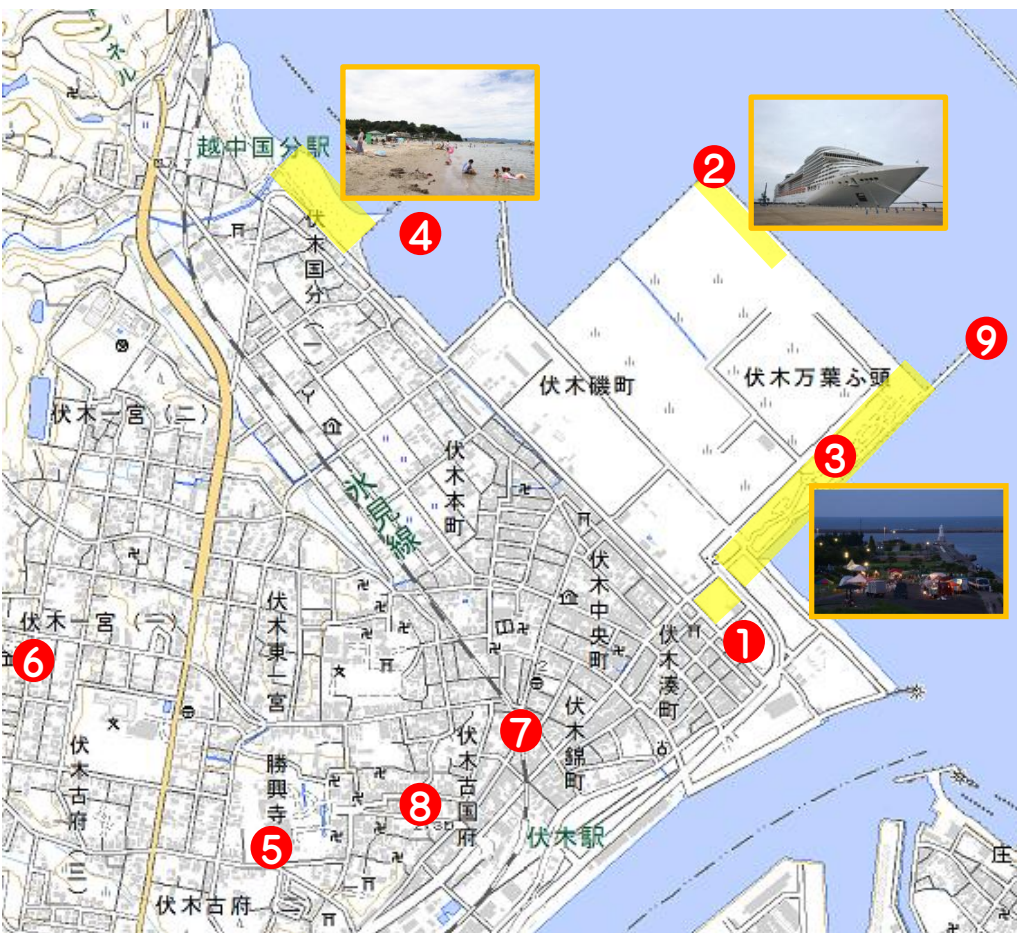


伏木港まつり



# みなとオアシス伏木の周辺情報

みなとオアシス伏木の周辺には、“みなとまち”として栄えた地域の歴史スポットが数多くあります！



## ①伏木コミュニティセンター【代表施設】



代表施設となる「伏木コミュニティセンター」は、伏木地区の地域振興や交流を深めるためのコミュニティー施設です。高岡市伏木支所、図書館、多目的ホール、会議室・研修室等があり、屋上の展望テラスからは伏木港と立山連峰の壮大なロケーションが一望できます。クルーズ船が伏木港に寄港した際には、おもてなしイベント会場として日本文化を体験してもらう等、交流拠点としても活用されています。



このほか、毎年5月15日に行われる伏木神社例大祭（通称「けんか山」）の展示ブースには、実際の山車が常設展示（※）されており、来訪者へのプロモーションも行われています。

※例大祭期間を除く



## ⑦高岡市伏木北前船資料館



廻船問屋の町家である旧秋元家住宅を「伏木北前船資料館」として開放し、伏木と周辺の村々の歴史、当時の水運の様子を紹介するほか、古地図や引札、船主の生活道具など、貴重な資料を展示しています。

## ⑧高岡市伏木気象資料館



1883年に日本初の私立測候所として設立され、1887年には富山県に移管。その後国営となり、現在の富山地方気象台の業務移管を経て、2005年より高岡市伏木気象資料館として開館。2006年登録有形文化財に登録。

## ⑨伏木外港万葉東防波堤灯台



「伏木港開港の父」と評される藤井能三が1877年に私費で建設した日本海側初の西洋式灯明台を、1999年に開港100周年を記念して再現されました。



②万葉3号岸壁

④国分海浜公園

③万葉ふ頭緑地

⑤勝興寺

⑥高岡市万葉歴史館



# みなとオアシス伏木 ～歌人・大伴家持と越中国～

てんびょう

おおもとのやかもち

天平時代の歌人・大伴家持は、天平18(746)年、29歳の時に越中国の国守としてこの地に赴任し、5年間暮らしました。国の役所であった「国府」は、海の道、川の道、陸の道の結節点に位置した高岡市伏木に置かれ、政を行った政庁はもとより、家持が生活していた官舎などが、現在の勝興寺一帯にあったとされています。

奈良出身の名門貴族であった家持にとって、遠く離れた越中国での暮らしには不安もあったようですが、眼前に広がる荒磯海も珍しく、また美しい大自然に心動かされ、数多くの歌を残しました。越中国で過ごした時が、家持を時代を代表する歌人へと大きく成長させたと考えられています。

万葉集におさめられている家持の歌473首のうち、223首が越中ので詠まれたものであり、家持の部下が詠んだ分なども併せ337首が「越中万葉」として親しまれています。また、歌に詠まれた情景は約1300年前の富山の姿を現代に伝えてくれるかけがえのない史料となっています。

代表施設となる「伏木コミュニティセンター」では、平成9年度より万葉集を学ぶ講演も定期的開催しています。また施設内の図書館にはふるさとを紹介するコーナーがあり、万葉集と大伴家持の関連書籍が多く揃えられています。

## 家持が暮らした当時はこのような地形だったとされています

家持が政事を行っていた「政庁」は現在の勝興寺の敷地内に、官舎である「館」は、伏木気象資料館の周辺にあったと推測されています。



## 大伴家持の代表作



大伴家持と坂上大嬢の像  
(高岡市万葉歴史館・玄関前)

春の園 紅にほふ 桃の花  
下照る道に 出で立つをとめ

春の庭園は一面に赤く照り映えている。紅色に咲く桃の木の下まで赤く照り輝いている道に、ふと立ちあらわれる少女よ。

さかのうえのおいらつめ

家持の妻・坂上大嬢は、赴任4年目の春にようやく越中国にやってきました。

家持の代表作と言われるこの歌は、このときの喜びを詠ったものではないかという説があります。

たくさんの少女たちが入り乱れて  
水を汲んでいる寺井のほとりに  
(群がり)咲いているかたかごの花よ。

もののふの 八十娘ちらが 汲みまがふ  
寺井の上の かたかごの花

「かたかご」はカタクリのことで、早春に紫色の小さな花を咲かせます。高岡市の花に指定されており、万葉歴史館の「春の庭」や高岡古城公園などに群生地があります。

朝床に 聞けば遥けし 射水川  
朝漕ぎつつ 唄ふ舟人

朝の寝床の中で耳を澄ますと遠く遙かに聞こえてくるよ。射水川(現在の小矢部川)を朝早く船を漕ぎながら詠う船人の声が。

家持が住んでいた「東館」から、射水川(現在の小矢部川)はほど近くにあったようです。越中の国土と人々に親しんだ家持の姿が想像出来る一首です。

## ⑤勝興寺



雲龍山勝興寺は約30,000㎡の広大な境内を有し、本堂をはじめ12棟が国の重要文化財に指定。現在、大規模な保存修理工事を行っており、完成は2020年を予定しています。

## ⑥高岡市万葉歴史館



1990年10月に開館した日本初の「万葉集」をテーマとした研究施設であり、常設展示や企画展、万葉集ゆかりの「四季の庭」や、屋上庭園から立山連峰や富山湾の眺望を楽しみながら万葉の歴史を学ぶ事が出来ます。

# みなとオアシス伏木への交通アクセス



## 交通アクセス

高岡市伏木は富山県の西部に位置し、高岡市中心部から約8.5km、富山市中心部からは約23.5kmの距離にあります  
代表施設である「伏木コミュニティセンター」には、電車、バス、車でお越し頂けます

### ■電車

新高岡駅から高岡駅までJR城端線で3分  
高岡駅でJR氷見線に乗り換え  
高岡駅から伏木駅までJR氷見線で12分  
伏木駅から徒歩15分

### ■バス

加能越バス(伏木駅前経由乗車)  
・高岡駅前4番乗り場 約23分  
・高岡駅南口2番乗り場 約30分  
・新高岡駅2番乗り場 約40分  
「伏木支所前」下車徒歩3分

### ■自動車

金沢方面から：  
・北陸自動車道「高岡砺波スマートIC」下車 約25分  
・北陸自動車道「小矢部砺波JCT」から  
能越自動車道(無料区間)「高岡北IC」下車 約20分  
富山方面から：  
・国道8号線経由 富山駅前より約40分